

ワイレスカメラの設置できない場所

ワイレスカメラ設置 NG-1

電波が届いてこそそのワイレスカメラです。

ここで紹介している設置例は、ワイレスカメラにとってふさわしくないもののばかりです。設置を優先する場合は、有線 LAN 接続でご使用ください。

木造住宅以外（鉄筋・鉄骨・ALC・土壁・特殊素材）の建物

窓際さえも電波が届かない恐れがあります。



3 階建て以上の建物

床・天井等の物理的な障害物に加え、電波の特性上縦方向は、電波が届かない恐れがあります。（地上からのワイレスカメラ推奨設置高は、2m30cm 前後です。）



二重サッシや特殊ガラス・金属製雨戸

電波を遮断する恐れがあります。



撮影場所に植物・虫や土が多い

誤作動を起こす恐れがあります。埃やクモの巣も映りにくくなる原因になります。



ユニットバスや給湯器の近く

熱波で故障したり、鉄板が埋め込まれている場合は、電波が届かない恐れがあります。



ワイレスカメラ設置 NG-2

例：モニターはこの木造住宅の室内にあります

カメラ間：5m 以内

カメラ間が近すぎると電波干渉により映像が映らなくなる場合があります。カメラ同士は 5m 以上離して設置してください。設置が難しい場合は、リピート機能（対応機種のみ）のご利用をお試しください。

玄関灯やセンサーライトの光がカメラに当たる カメラ同士が向き合っている

カメラにライトの光が当たると無反応や映らない恐れがあります。必要場合は、カメラは光源の真下に設置してください。また、カメラ同士を映すように設置すると白飛び、誤反応が起きます。向かい合うように設置しないでください。

離れや物置にカメラを設置

木造の離れ等であっても、モニター間に壁が複数ある場合は、電波が遮られ通信できないことがあります。

カメラのフードを天にむけないで傾け

フードを横・斜め・下にすると検知しません。故障の原因にもなります。

高所に設置 雨ざらし、直射日光が当たる

カメラが高い位置にあると検知が難しくなります。また、夜間映像も暗くなる場合があります。軒下推奨です。

壁に平行

壁に平行に設置すると、夜間赤外線が反射して白飛びしてしまいます。昼間の画像を確認しながら、壁が映らない位置で設置してください。

金属製のカーポート

電波が遮断される恐れがあります。

家からかなり離れた門扉等

電波が届かない恐れがあります。